

環境報告書をご存じですか？

環境報告書は、事業者が環境負荷及び配慮等の取組状況について公表するものです。本学では、環境配慮促進法等に基づき、2006年度から毎年作成しています。

詳しくは➡ <http://hiroshima-u.jp/about/initiatives/kankyo>

本紙「HU-eco」は、環境報告書の一部を紹介しつつ、大学としての環境配慮活動へのご理解とご協力を、構成員のみなさまにお願いするための広報誌です。

環境報告書2016版の内容 (2015年度の実績報告)

- 学長ステートメント：本学における環境配慮行動についての考え方
- 広島大学基本理念・環境基本理念・行動方針
- 大学概要
- 環境管理体制
- 2015年度の目標と実績
- ◇本学における環境教育（毎年、その一部を紹介しています）
 教養教育／総合科学部・総合科学研究科／理学部・理学研究科
- ◇環境研究（毎年、その一部を紹介しています）
- ◇社会貢献・国際貢献・学生活動（毎年、その一部を紹介しています）
- ◇キャンパスの自然環境
- ◇環境負荷削減の取組と実績
- ◇環境リスク低減の取組と実績
- ◇環境に関する規制等の遵守状況
- ◇環境報告ガイドライン（2012）との対照表
- 第三者コメント・環境活動評価委員会コメント
- キャンパスマップ、編集後記



2016年度の環境目標

2016年度は、資源の有効利用の推進について、中期目標（2016～2021年度までの6年間）を新たに決めました。

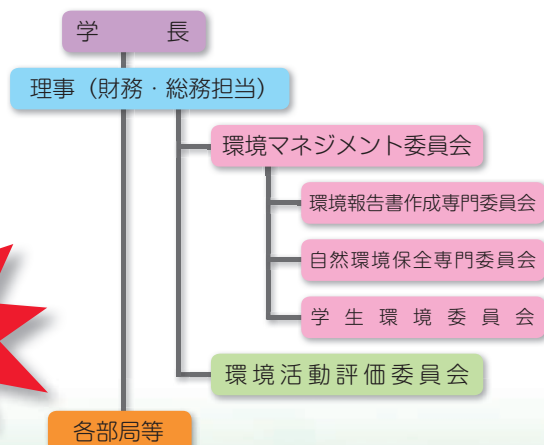
- ◆環境教育・研究の推進
 - *環境・安全教育の全学実施
 - *教養教育、専門教育等を通じた環境意識の醸成
 - *環境研究の連携強化と促進
- ◆社会貢献の推進
 - *地域社会・市民と連携した環境保全活動の推進
 - *地域・国際社会の環境問題解決に向けた取組の推進
 - *学校教育から生涯学習までの地域環境教育への貢献
- ◆自然環境の保全
 - *キャンパス内の生物相の把握
 - *キャンパス内の生物多様性を守る生態系管理体制の構築
 - *キャンパスの自然環境の管理・保全の実施
- ◆資源の有効利用の推進
 - *エネルギー使用原単位の削減
 - 2015年度比1%削減
 - 2021年度までに2015年度比6%削減
 - *水使用量の削減と資源化の促進
 - 水使用量の削減（2012年度実績（過去7年間の最低使用量）より減）
 - 水再利用の促進
 - *廃棄物の削減と資源化の推進
 - 資源化促進による可燃ごみ排出量の削減
 - 2015年度比1%削減
 - 2021年度までに2008年度実績まで削減
 - *コピー用紙購入量の削減
 - 2015年度実績より減
 - 2014年度実績（過去7年間の最低購入量）より減

ここがポイント!!
 2015年度に未達成の課題



職員・学生のボランティアによる花壇緑化作業

本学の環境管理体制



キャンパスは「まるごと博物館」

— キャンパスの自然環境の保全と活用 —

※詳しくは、環境報告書の p.21～24参照

2015年度の環境目標と実績「自然環境の保全」

環境目標	主な活動実績
キャンパス内の生物相の把握	・ 裏山の生態系をみる授業の実施 ・ 東広島キャンパスの蝶類、両生類等の観察・調査を継続的に実施
キャンパス内の生物多様性を 守る生態系管理体制の構築	・ 自然環境保全専門委員会において、課題検討を実施
キャンパスの自然環境の 管理・保全の実施	・ 植物管理室によるキャンパス内の植生管理を実施 ・ 樹木の水やり、剪定、害虫駆除を実施 ・ 学生教職員が一斉清掃活動を実施



フィールドナビによる山中池自然観察会

東広島キャンパスの環境管理：ゾーニングと注目ポイント

東広島キャンパスは約250haの広大な敷地の中に、山林、ため池、溪流など多様な環境を含んでおり、そこには多様な動植物が生息しています。

大学に必要な機能・利便性を確保しながら豊かな自然と共生していくため、本学では、「自然区」「半自然区」「管理区」の利用目的と環境特性に応じたゾーニング管理を実施しています。

キャンパス内には、自然を観察するための発見の小径を整備するなど、キャンパス全体をまるごと博物館とするような利用をしています。



教養ゼミにおける「発見の小径」

総合博物館では、発見の小径の活用の一環として、新入生が受講する「教養ゼミ」において、発見の小径の利用（解説付）プログラムを技術センターの協力のもと実施しています。

このプログラムは、アンケートによると新入生からの評価も高く、毎年多くのゼミに利用いただいています。本プログラムを通じて、新入生が自然・環境・植物等に関心を持つきっかけとなることを期待しています。



教養ゼミの様子

トピックス

東広島キャンパスのチョウ

チョウは、私たちの生活に身近な昆虫として古くから親しまれているとともに、自然環境を評価する昆虫として知られています。東広島キャンパスには、全国どこでも見かけることのできるベニシジミや、全国的に個体が減少しているギフチョウやツマグロキチョウなど様々なチョウが生息しています。ギフチョウは春に出現する美しいチョウで、人間が利用するために適度な下草が保たれる里山に多いことから「春の女神」とも呼ばれています。



ギフチョウ

資源の有効活用を進めよう

※詳しくは、環境報告書の p.25~30参照

2015年度の環境目標と実績「資源の有効利用」

	項目	2015年度目標値	2015年度活動実績
可燃ごみ	廃棄物の削減と資源化の推進	資源化促進による可燃ごみ排出量の削減	3.1%増 (2012年度比)
		2012年度実績より減	
紙	コピー用紙購入量の削減	2012年度実績より減	2.5%増 (2012年度比)
エネルギー	エネルギー使用原単位※の削減	2014年度比1%削減	2.03%減 (2014年度比)
		2015年度までに2013年度比2%削減	7.05%減 (2013年度比)
水	水使用量の削減	2012年度実績より削減	7.1%減 (2012年度比)
	資源化の促進	水再利用の促進	15.4% (対上水使用量比)

※エネルギー使用原単位：各エネルギー（電気・ガス・重油）消費量を原油換算し、対象建物の延べ面積で除した値



**混ぜればゴミ、
分ければ資源**



**研究室や事務室に分別 BOX
を設置し、分別し易い環境
を作りましょう！！**

分別すればリサイクル可能な紙（封筒類、紙袋、包装紙、紙箱など）が、**可燃ごみ**として出されています。可燃ごみを減らし、資源を有効活用するためには、**ごみ分別の徹底**が重要です。これらの紙は**雑誌類**に分別し、資源化しましょう。

広島大学で使っているエネルギーは、

- 全学エネルギー消費量（熱量換算）974,427 GJ/年（*1約97,700 MWh/年）
⇒ 構成員*2 1人1日当たり 117 MJ/人/日（約12 kWh）
この値は、一般家庭の1人1日当たりの電気使用量の約2倍です。
- 全学 CO₂排出量 67,313 t-CO₂/年
※1 省エネ法による電力量換算値
※2 構成員：全学の教職員と学生、生徒、児童、園児の総数（約22,860人）

2015年度

広島大学で出たごみは、

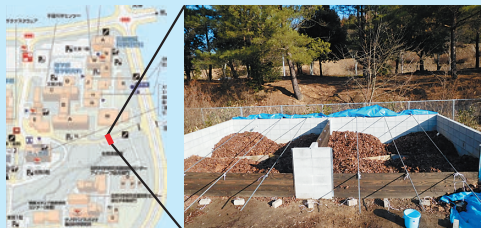
- 可燃ごみ排出量（全学）約590 t/年
- 可燃ごみ（2012年度比）約17 t 増
※約3~4割がリサイクル可能なごみです。
- ペットボトル回収量 31,218 kg/年⇒約2,140 本/日

トピックス

落葉を可燃ごみとして捨てないで！

落葉は可燃ごみとして排出すると、ごみ処理場に運ばれ燃やされます。しかし、それを集めて微生物に分解させると、堆肥としてまた土に戻すことができます。

本学で発生する落葉は工学部から生物生産学部までのアメリカフウ並木だけで1年間に約1t（乾重量）あり、その回収・処理は主に業者に依頼していますが、学部毎に清掃をする際に集めた落葉の一部が、可燃ごみとして捨てられているようです。このような落葉を堆肥化するために自然環境保全専門委員会で堆肥場設置の検討を始め、2016年1月に堆肥場（理学研究科植物管理室敷地内）を作成しました。2016年の秋の落葉から受入れを開始する予定ですので、落葉は可燃ごみとして捨てないでください。詳しい受入れ方法が決まり次第、皆さんにお伝えします。



東広島キャンパス理学研究科植物管理室敷地内に設置された堆肥場



これらはすべて雑誌類にまとめて搬出

**皆様のご理解と
ご協力をお願いします**

学生環境委員会・サポーターとして活動しませんか

※詳しくは、環境報告書の p.20参照

学生環境委員会とは

環境マネジメント委員会の下、自然環境保全専門委員会と連携を図りながら活動する学生のみで構成された委員会です。広島大学の環境配慮活動に、学生にも主体的に参画してもらうことを目的として、2014年10月に設置しました。広島大学の「環境目標」（環境教育・社会貢献の推進・自然環境の保全・省エネ推進）を達成するために次の活動を行っています。

1. 環境目標に沿った活動の年度計画の策定
2. 自然環境保全専門委員会と連携した活動
3. 広島大学における環境活動の普及啓発、情報発信
4. 活動を通じた地域貢献



学生環境サポーター

2013年に設立された、広島大学における環境活動の企画運営に参加している学生ボランティア団体です。現在、学部生・院生が15名登録し、学生環境委員会で決定された活動について、委員と共に活動を行っています。その他にも、大学生・大学・地域の方などに向けた企画を考えたり、大学構内の生態調査、環境啓発ポスターの作成などを行っています。一緒に活動してくれるメンバーを募集しています。興味がある方は、下記 HP をご覧ください。

*もみじ > 学生生活のサポート > 学生環境委員会 > 学生環境サポーター
<https://momiji.hiroshima-u.ac.jp/momiji-top/life/life/kankyosupporter.html>



理学研究科 博士課程前期1年
花田 俊樹

今後も、これまでの活動に囚われず様々な活動を行っていきたいと思います。大学構成員として、参加者として、そして一緒に活動していく学生環境サポーターとして大学の環境活動を盛り上げませんか。

<学生環境委員会・サポーターの活動紹介>

— 環境教育 —

ゆかた祭りでキャンパス内でみられる生き物を展示したり、植物の葉を使ったしおりづくりを体験してもらうことで、キャンパス内の自然を身近に感じてもらいました。また、大学祭前のクリーンプロジェクトにおいては、他の環境系サークルや団体と連携し、多くの学生や教職員と清掃活動に取り組むことができました。

— 自然環境の保全 —

5年に1度行われる「タンポポ調査・西日本」にサンプルを提供するため、キャンパス内のタンポポを採取しました。その結果、これまで県内では記録のなかったトウカイタンポポの生育を確認できました。また、このほかにもキャンパス内には多くの希少種や保全されるべき環境が残っています。そこで、私たちはそのことを多くの学生に知ってもらい、保全活動につなげていけるように「キャンパスツアー」を年に2回開催しています。



キャンパスツアーの様子

— 省エネ推進と キャンパスの緑化活動 —

学生や教職員に省エネを実行してもらうようエアコンの温度設定についてのポスターを作成しました。また、図書館前や博物館前の花壇に季節に合わせた花を植えて、花壇をきれいに維持することで、快適に過ごせる空間づくりを目指しています。



環境啓発ポスターの作成

— 社会貢献の推進 —

東広島市が主催する「きれいなまちづくりキャンペーン」に参加し、私たちの住んでいる町の美化に取り組みました。また、「まちづくりカフェ」では、多くの団体と交流し、環境からみたまちづくりの提案をしました。今後も大学内だけの活動にとどまることなく、積極的に大学外の活動やイベントに参加し、活動の幅を広げていきたいと考えています。



「山水賞」受賞

これまでの実績が評価され、2015年度は「西条・山と水の環境機構」より山水賞を受賞しました。これからも学生・大学・地域の架け橋になれるように積極的に活動していきます。